

「宇都宮×未来フォーラム」  
意見集

令和4年3月

宇都宮市

株式会社エックス都市研究所



# 目次

1. 開催概要	1
(1) 開催概要	1
(2) 活用ツール「slack」について	2
2. 参加状況等	3
(1) 参加状況	3
㊦ 参加実態	3
㊦ 投稿状況	4
(2) 参加希望の状況	5
(3) 参加者の属性	6
㊦ 年齢	6
㊦ 職業	6
㊦ 居住地	7
3. テーマごとの主な意見	8
(1) テーマ1_子ども・若者・子育て世帯の夢や希望がかなうまち	8
(2) テーマ2_全国のモデルとなるスマートシティ	10
(3) テーマ3_カーボンニュートラルなまちうつのみや	11
4. 参加後アンケート	13
(1) 調査の概要	13
(2) 結果概要	13
㊦ 属性	13
㊦ 宇都宮市政に対する興味・関心の変化	15
㊦ 参加テーマに関する興味・関心の変化	15
㊦ 発言のしやすさ	16
㊦ 今後の参加意向	17

# 1.開催概要

## (1)開催概要

・宇都宮×未来フォーラムは,期間を 2 クール制とし,各クール 3 週間実施した。開催概要を,以下に示す。

表 1 開催概要

項目	内容
取組名	宇都宮×未来フォーラム
目的	○ICT の活用による若年層の市のまちづくりへの積極的参加の促進 ○クローズ型 SNS(Slack)を用いた若者の話し合いの場づくりの試行
話し合いのテーマ	○テーマ 1_子ども・若者・子育て世帯の夢や希望がかなうまち ○テーマ 2_全国のモデルとなるスマートシティ ○テーマ 3_カーボンニュートラルなまちうつのみや ○取組に参加した感想, 改善点 (WEB アンケート形式で実施)
主催	宇都宮市総合政策部政策審議室
実施者 (受託者)	株式会社エックス都市研究所
試行的取組の期間	2 クール制とし, 各クール 3 週間 ○第 1 クール: 令和 3 年 11 月 29 日(月)~令和 3 年 12 月 20 日(月)の 3 週間 ○第 2 クール: 令和 4 年 1 月 11 日(火)~令和 4 年 2 月 1 日(火)の 3 週間
活用ツール	Slack (フリープラン)
対象	18 歳から 39 歳までの若者 (宇都宮市のまちづくりに関心のある人)
参加要件	PC, タブレット, スマートフォン等で, Slack をダウンロードし, オンライン上での意見交換に参加できること
定員	目標: 100 人程度
募集方法	①宇都宮市の SNS による周知 ②市内大学・専門学校への呼びかけ ③市民懇談会参加団体への呼びかけ ④大学生によるまちづくり提案団体への呼びかけ ⑤11/14 開催の成人式でのチラシ配布 ⑥その他, 政策審議室, EX のネットワークを使った呼びかけ (有識者ヒアリング対象者の研究室学生など)
応募方法	○登録方法: Microsoft_forms による登録 URL: <a href="https://forms.office.com/r/8A92ck6DLk">https://forms.office.com/r/8A92ck6DLk</a> ○登録内容: 氏名, 住所 (市区町村まで), 年齢, 職業, 学校名や企業名, メールアドレス ○簡易アンケート: 話し合いのテーマについて, 興味のある順番, 簡単な応募動機 (宇都宮市に関心があるから/取組に関心があるから/宇都宮市を良くしたいから)
応募者の参加方法	事務局より, ワークスペースへの招待メールの送付

## (2)活用ツール「slack」について

- ・Slack とは,Slack 社が提供する人・データ・アプリケーションをつなぐビジネスプラットフォームである。
- ・会話のテーマごとにチャンネルを作成することで,会話を整理することができる。また,メッセージだけでなく,画像やファイルの共有もでき,投稿に対するリアクションもスタンプ等で気軽にできる。
- ・Slack 社は,2013 年に米国において創業しプラットフォームのリリースを始め,2017 年 9 月に日本法人 Slack Japan 株式会社を設立し,現在では世界 17 カ所に拠点を構えている。全世界で 1,250 万人が利用している。
- ・本取組における意見交換の様子を以下に示す。



図 1 第 1 クールでの意見交換の様子

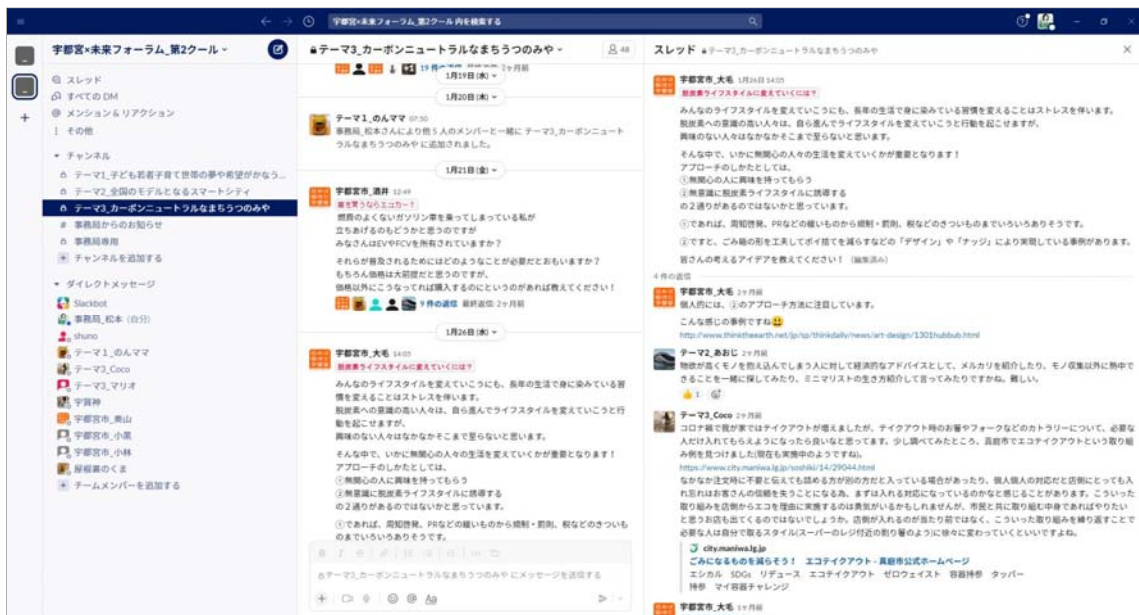


図 2 第 2 クールでの意見交換の様子

## 2.参加状況等

### (1)参加状況

#### ①参加実態

- ・登録者数は、第1クールが33名,第2クールが26名の計59名であった。
- ・参加者数は、第1クールが28名,第2クールが17名の計45名であり、参加率は76.3%であった。申し込み後、参加しなかった人が23.7%であった。

表 2 参加状況

項目		テーマ1	テーマ2	テーマ3	計
第1クール	登録者	11	11	11	33
	参加者	9	9	10	28
第2クール	登録者	11	8	7	26
	参加者	8	3	6	17
合計	登録者数	22	19	18	59
	参加者	17	12	16	45
参加率		—	—	—	76.3%

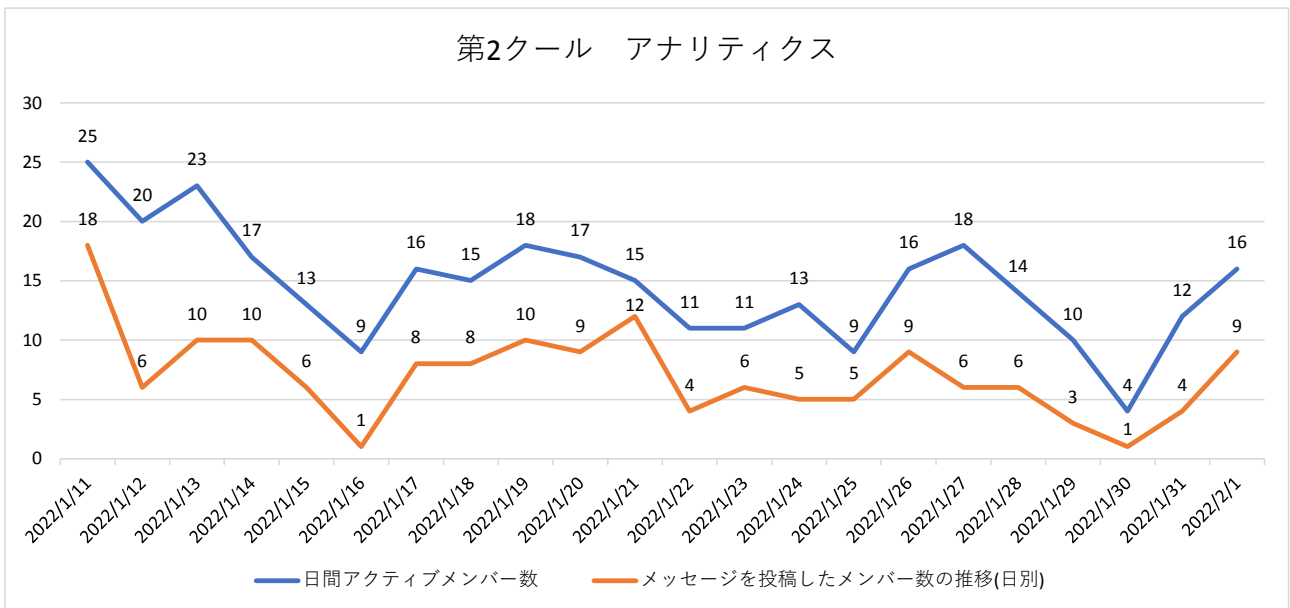
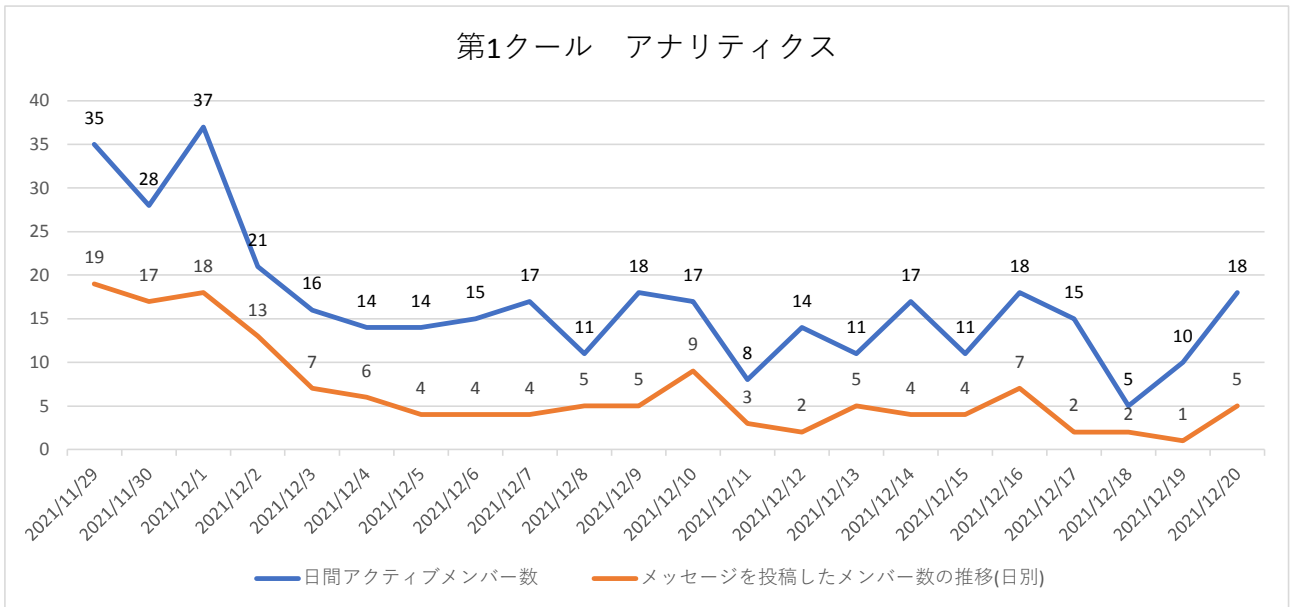
※テーマ1\_子ども・若者・子育て世帯の夢や希望がかなうまち

※テーマ2\_全国のモデルとなるスマートシティ

※テーマ3\_カーボンニュートラルなまちうつのみや

## ②投稿状況

- ・第1クールにおいて、アクティブメンバー数が最も多かったのは、期間が開始して3日目の37人であった。アクティブメンバー数の平均は16.8人となっていた。
- ・第1クールにおいて、メッセージを投稿したメンバーが最も多かったのは、初日の19人であった。メッセージを投稿したメンバーの平均は6.6人であった。
- ・第2クールにおいて、アクティブメンバー数が最も多かったのは、期間が開始して初日の25人であった。アクティブメンバー数の平均は14.6人となっていた。
- ・第2クールにおいて、メッセージを投稿したメンバーが最も多かったのは、初日の18人であった。メッセージを投稿したメンバーの平均は7.1人であった。



## (2)参加希望の状況

- ・参加者（n=45）の参加希望の状況等について,単純集計を行った。
- ・議論のテーマの希望状況としては,テーマ 1 を第 1 希望とした参加者が 31 名と最も多く,テーマ 2 及びテーマ 3 はそれぞれ第 2 希望及び第 3 希望とした参加者が多かった。
- ・参加の動機としては,「宇都宮市を良くしたいから」が最も多かった。

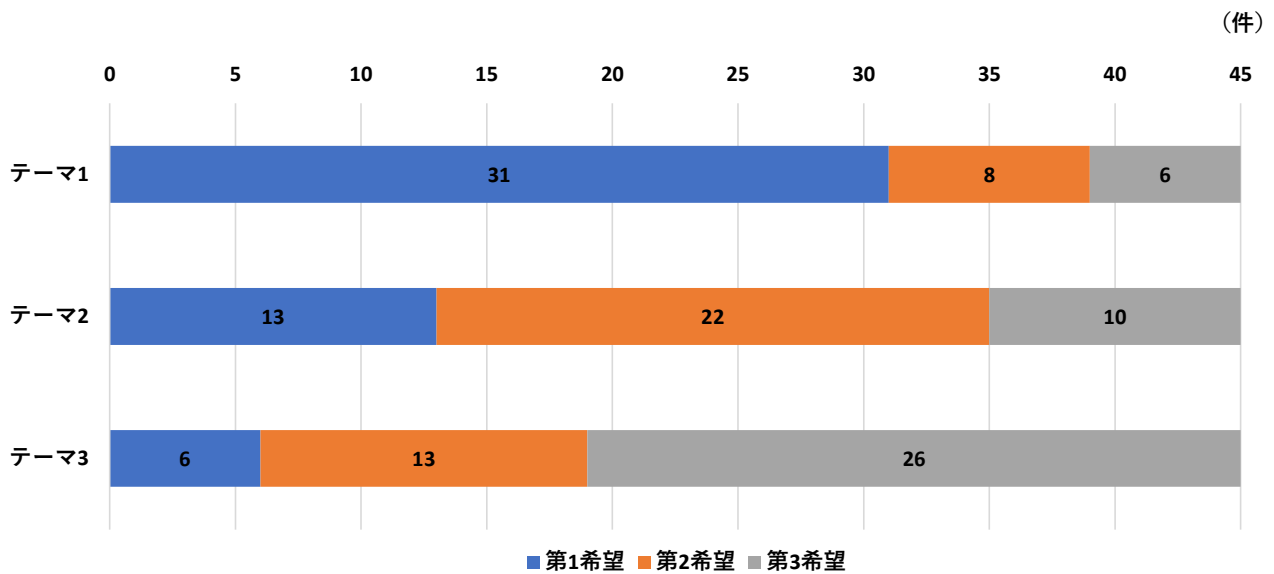


図 3 希望するテーマ (n=45)

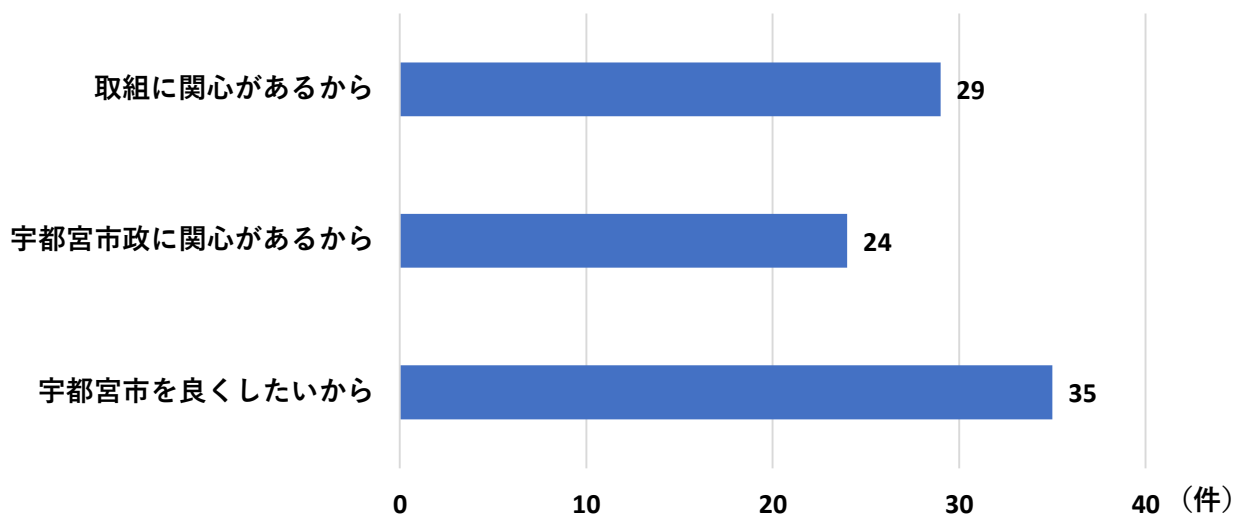


図 4 参加の動機 (n=45, 複数回答)

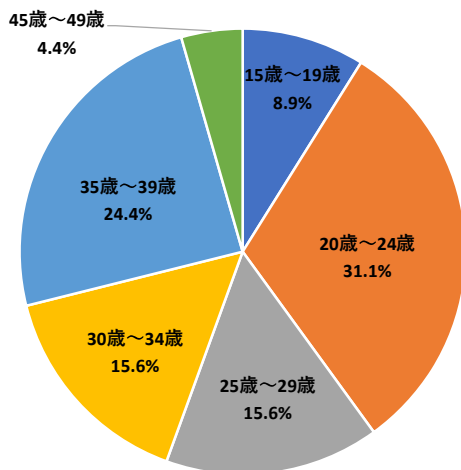


### (3)参加者の属性

・参加者（n=45）の属性について、単純集計を行った。

#### ①年齢

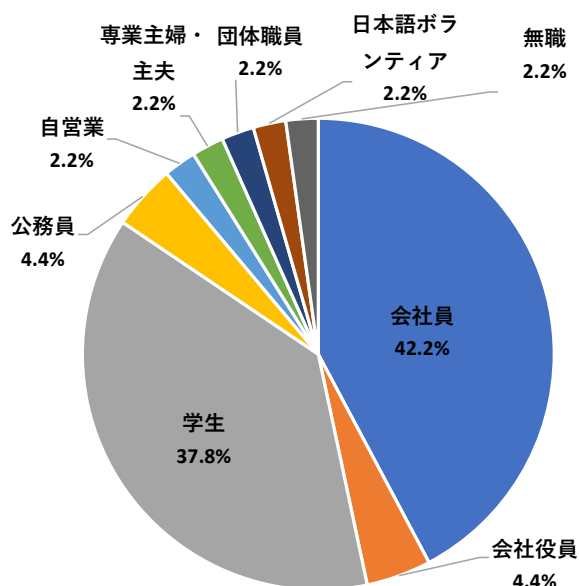
・参加者の年齢層は、20歳～24歳が31.1%と最も高く、次いで35歳～39歳が24.4%、25歳～29歳及び30歳～34歳が15.6%となっていた。



年齢区分	件
15歳～19歳	4
20歳～24歳	14
25歳～29歳	7
30歳～34歳	7
35歳～39歳	11
45歳～49歳	2
総計	45

#### ②職業

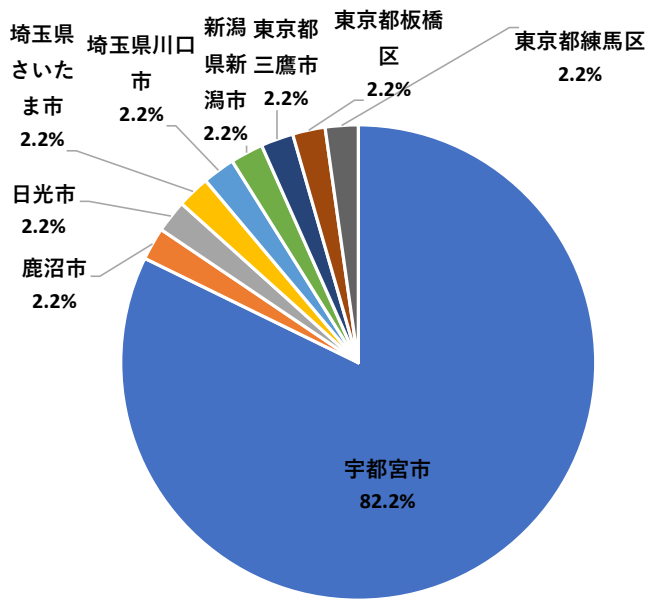
・参加者の職業は、会社員が42.2%と最も高く、次いで学生が37.8%、公務員及び会社役員が4.4%となっていた。



職種	件
会社員	19
会社役員	2
学生	17
公務員	2
自営業	1
専業主婦・主夫	1
団体職員	1
日本語ボランティア	1
無職	1
総計	45

### ③居住地

・参加者の居住地は、宇都宮市が 82.2%と最も高くなっていた。



居住地	件
宇都宮市	37
鹿沼市	1
日光市	1
埼玉県さいたま市	1
埼玉県川口市	1
新潟県新潟市	1
東京都三鷹市	1
東京都板橋区	1
東京都練馬区	1
総計	45

### 3. テーマごとの主な意見

#### (1) テーマ 1\_子ども・若者・子育て世帯の夢や希望がかなうまち

##### 話題①結婚について

- ・結婚をしたいと思っても、必要な資金、仕事や結婚生活の両立、相手と話し合うタイミングなど、不安や疑問がある。
- ・最近では、対面で人と接する機会が減り、さらに誰かと一緒になるビジョンが描きづらい。
- ・結婚して家庭を持つことにリアリティを持ってない。モノやコトで繋がる弱い繋がりや同質化されたコミュニティ、ひとりの方が気楽と感じる。親密感や拒絶されることへの恐れがあり、社交や恋愛への投資の優先順位が低い。
- ・結婚を幸せの型に当てはめるのではなく、当人にとって何が幸せであり、そのためにどのような環境を手に入れるのが大切である。
- ・若者の漠然とした不安を取り除くモデルケースがあると良い。宇都宮市での生活が都内に比べてお金がかからない等、メリットを知る機会があると良い。(例：行政と企業が連携し、子育てがしやすい宇都宮市を実現し、それを全面的にアピールする)
- ・結婚を考えているカップルに向け、空き家をリノベーションし、期間限定の居住体験ができると面白い。宇都宮の良さを知ってもらう機会、結婚に踏み切るきっかけになると思う。

##### 話題②出産・子育てについて

- ・宇都宮市は、子どもの医療費など子育て支援が手厚い。また、交通の便が良く、災害が少ないことは強みであるため、宣伝していくべきである。
- ・女性が出産・子育てでキャリアを諦めなくても良い環境、転職への支援があると良い。
- ・子育てサポートサービス（一時預かりや夜間預かり）のニーズに対して供給が間に合っていないことが常態化している。
- ・保育園に入れるという確証があれば、出産の後押しになる。
- ・保育士の待遇を改善し、人材確保をすることも大事である。
- ・コロナ禍であったり、知り合いがいない場所に移住したりと、一人で子育てをする人もいるため、孤立を防ぐためにもオンライン等で交流できる機会があると良い。
- ・子どもを産むことが自己責任ではなく、みんなで育てようという風潮になると良い。宇都宮市では、社会全体で子育てをすることを強くアピールできると良い。
- ・産前・産後ケアのサポートが足りない。他都市は、家事代行・託児サービス、産後ケア等の費用を一部補助している。
- ・男性の育休取得が難しく、子どもの発熱時のお迎えは母親という考えの人も多くおり、女性が子育てを主に担うイメージがある。育児休暇取得のメリットを周知し、性別問わず働きやすい職場環境をつくるのが大事である。
- ・栃木県には父子手帳がありとても良い。広報うつのみやにダウンロード先の案内を定期的に掲載してはどうか。
- ・男性トイレにもおむつ交換スペースがあると良い。シングルファーザーや夫が子どもを連れて出かけた場合に困る。

### 話題③進学先の選択肢について

- ・進学先の選択肢が少なく,県外への流出が進んでいる。(例: 中学受験のため転居,国立大学の医学部や薬学部がなく県外の大学に進学)
- ・県外の大学に進学した人は,ほとんど戻ってこない。

### 話題④企業の子育て支援への取組

- ・従業員の育児に寛容な会社を宇都宮市独自に認証してはどうか。
- ・男女共同参画推進事業者表彰(きらり大賞)等の制度をつくるだけではなく,制度の活用状況や離職率,また従業員の意識の変化などの指標も必要である。
- ・中小企業は慢性的な人手不足であり,子育て世代である20歳代~30歳代は企業の第一線の戦力であるため,子どもに関係する遅刻や早退が困難である。他者の仕事をカバーできるだけの人材的余裕がある企業体制が浸透すれば,子育てに時間を費やすことができる。

### 話題⑤若者や子育て世代の居場所

- ・駅前や中心部に若者や子育て世代が集まる空間が少ないため,広場や公園があると地域住民の交流の場となり,若者や子育て世代が集まる空間になると思う。
- ・駅前や中心部に子どもを連れて入れるカフェや子育てサロンがあると子育て世代が集うと思う。

### 話題⑥働くことに対する考え方

- ・就活生は,興味のある職種や業界を優先し,勤務地にはこだわらない人が多い傾向にある。最近では,転職を想定し,需要のあるスキルを身に付けることを第1条件にする傾向にある。
- ・興味のある仕事の中で,自分に適性のある仕事か,長く働き続けられるかをポイントに就職活動を行っている。
- ・転職に対してポジティブなイメージが強い。新卒入社で半年以内に転職している人も何人かいる。
- ・宇都宮市内の働く場としては,企業や職種が限られている。

## (2)テーマ 2\_全国のモデルとなるスマートシティ

### 話題①交通分野のデジタル化について

- ・市民に対して LRT 等の公共交通を利用したライフスタイルを広めると良い。
- ・バスの走行位置や運行状況がスマホで確認できることや、道路等の混雑状況に応じた最適なルートを知らせるサイトがあると便利である。

### 話題②学校教育現場でのデジタル化について

- ・学校でのデジタル化が遅れていると聞くため、頑張ってもらいたい。
- ・大学では講義の方法が異なり、1 限目が対面式で 2 限目がオンライン形式の場合があり、その調整をするのが不便である。
- ・保育園や学校への欠席連絡や宿題提出等がスマホアプリ (LINE なども含め) でできると便利である。

### 話題③キャッシュレス化について

- ・バスで Suica が使えるようになったのは最近であり、東京などの都心と比べると ICT 化が遅れている。
- ・商店街等でキャッシュレス化が進むと便利である。(例：キャッシュレス化 100%のまち)
- ・アプリに歩数計機能を搭載し、その歩数をポイントに交換し市内で買い物ができるとうまい。

### 話題④メタバースについて

- ・メタバースを用いて、多様な居場所を整えてほしい。(例：学校以外の場所、バーチャルオフィス)
- ・価値観の近い人でつながることができるため、居場所となりうる。
- ・メタバース空間を用いて宇都宮 JAZZ メタバースランドやカクテルランド等のイベントを行うことで、関係人口を増やし、移住先として選んでもらうきっかけをつくることも良いのではないかと。

### 話題⑤デジタルデバインド対策について

- ・高齢者には、新聞や広報誌、子どもや孫とワークショップ等への参加を通じて ICT の良さを伝えられるとうまい。

### 話題⑥人材育成

- ・デジタル技術に精通する人材育成が必要であり、デジタル技術を学ぶことができる学校や働く場があると良い。

### その他

- ・市が推進する NCC という概念を知らなかった。また、実感する出来事もない。
- ・河川の氾濫や土砂崩れを防止する目的で水位観測などを行い、危険を知らせる AI システム及び市民に通知するスマホアプリがあったら便利である。
- ・観光・まち歩きを促進するアプリがあると良い。
- ・職場でのテレワークが進まない。

### (3)テーマ3\_カーボンニュートラルなまちうつのみや

#### 話題①再生可能エネルギーについて

- ・太陽光発電以外の風力発電や水力発電等の導入検討をしてはどうか。ただし、景観との調和に配慮しつつ導入を進めることが重要である。
- ・太陽光発電が必要不可欠なのであれば、補助を出し住宅への設置を義務化してはどうか。また、太陽光発電を設置する場合は、蓄電池もセットで自家消費を考えていく必要がある。さらに、需要調整も必要となってくることから、スマートグリッドの導入を検討してはどうか。
- ・市民ができることとして、再生可能エネルギー比率の高い電力会社への切り替えが考えられる。

#### 話題②移動手段の転換について

- ・自家用車の方が便利であるため、公共交通が移動手段の選択肢に入っていない。
- ・公共交通は、「時間通りに来ない」「自分の好きなタイミングで移動できない」という理由から、特に通勤時間帯は利用しづらい。アプリ等によりバスの位置情報が分かるようになれば良い。
- ・子どもと一緒に公共交通で移動する場合、周りの目が気になることや、保育園の送迎時には荷物が多いこと等がハードルとなっている。小型車両や複数の移動サービスが普及すれば、ハードルが下がるのではないかな。
- ・自転車を選択肢に入るよう、利用しやすい環境整備（道路整備や自転車置き場の屋根設置）が必要。
- ・ガソリン車からEV車に転換するには、ハードルとなっている購入費への補助があれば可能性が出る。
- ・働き方としてテレワークが選択できれば移動がなくなり、脱炭素に貢献できるのではないかな。

#### 話題③廃棄物の削減、資源の再利用について

- ・プラスチック製品の削減の動きはあるが、過剰包装である。量り売りのお店が少ない。
- ・必要なものを必要な分だけ購入したり、長く使用できるものを選んだり、新規購入だけでなくレンタルすることでも廃棄物の削減につながる。
- ・自宅にコンポストを導入しており、生ごみを削減している。コンポストを使用した後に生成された肥料は自宅に埋めているが、肥料として活用ができると良い。
- ・紙おむつのリサイクルができると良い。
- ・フードロスについて、売り出し方の工夫が必要である。（例：「見切り品」という言葉をやめ「サステナブルに貢献」という言葉を使い、ディスプレイも工夫）
- ・農作物や製品の規格が他国に比べ厳しいため、ロスが生まれている。フランスやイタリアは法体系を変えて取り組んでおり、日本は後れをとっている。
- ・「もったいない運動」のイメージ改善が必要である。
- ・食育×環境問題を考える機会として、学校教育の一環で農業体験等をするとう良い。

#### 話題④行動変容を促す取組について

- ・脱炭素に関する意識を向けていない層に働きかけるためには、個人の意識以外のところで行動を促す仕組みがあると良い。
- ・個人の行動に起因するCO<sub>2</sub>排出量と、行動を改善した場合のCO<sub>2</sub>削減量を見える化するアプリ等を導入し、目標達成時にインセンティブを与えれば、行動変容を促すことができるのではないかな。

## その他

- ・宇都宮市が目指す脱炭素の程度を数値化されていると議論しやすい。
- ・農作業機械のエネルギー源を再生可能エネルギーにできたら良い。
- ・農産物の運搬に自動車を使用すると CO2 が排出されてしまうため,地産地消の取組が重要。
- ・気候変動が自然災害等に影響しており,その対応として防災とコミュニティが大事になる。日頃からの心の通ったコミュニケーションがないと,有事の避難やお互いに助け合うことが難しい。最近は核家族が多かったり,自治会に所属していない世帯は地域に溶け込むのが難しい。特にコロナ禍でイベントがなくなり余計に難しい。

## 4.参加後アンケート

### (1)調査の概要

- ・本取組に参加した感想や改善点を把握するため,参加者に対してアンケート調査を実施した。
- ・配布は,slack のワークスペースにアンケートサイトの URL を掲載した。
- ・回収は,Microsoft Forms により行った。
- ・アンケート調査の回収率は,第 1 クールでは 32.1%,第 2 クールでは 47.1%であった。

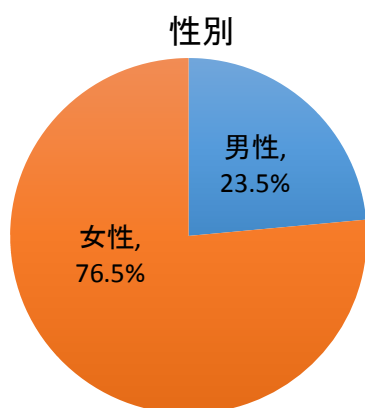
表 3 調査の概要

項目		内容
調査対象		第 1 クール参加者 28 名 第 2 クール参加者 17 名
調査方法		Microsoft Forms による配布・回収
調査期間	第 1 クール	2021 年 12 月 20 日(月)17:00 から 1 週間程度
	第 2 クール	2022 年 2 月 1 日(火) 17:00 から 1 週間程度
回収状況	第 1 クール	回収件数: 9 件 回収率: 32.1%
	第 2 クール	回収件数: 8 件 回収率: 47.1%

### (2)結果概要

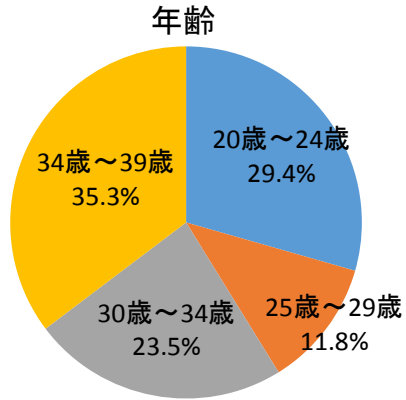
#### ①属性

- ・回答者の性別は,女性が 76.5%,男性が 23.5%であった。
- ・回答者の年齢層は,34 歳～39 歳が 35.3%と最も高く,次いで 20 歳～24 歳が 29.4%,30 歳～34 歳が 23.5%であった。
- ・回答者の居住地は,宇都宮市内が 82.4%と最も高かった。
- ・回答者の職業は,会社員が 47.1%と最も高く,次いで学生が 29.4%であった。

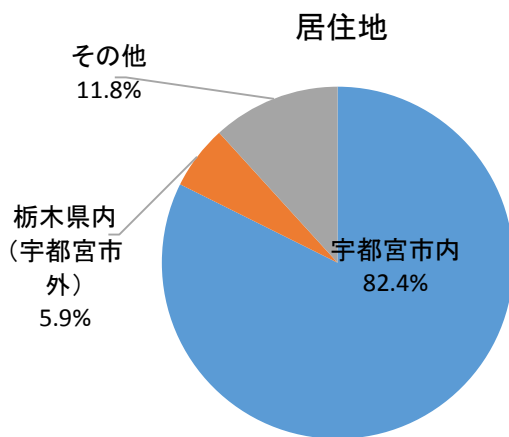


性別	件
男性	4
女性	13
総計	17

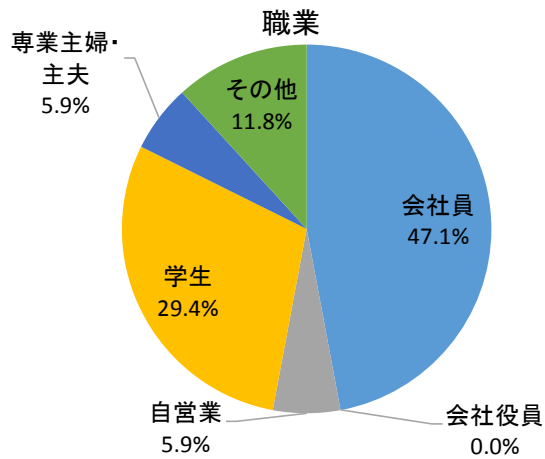




年齢区分	件
20歳～24歳	5
25歳～29歳	2
30歳～34歳	4
34歳～39歳	6
総計	17



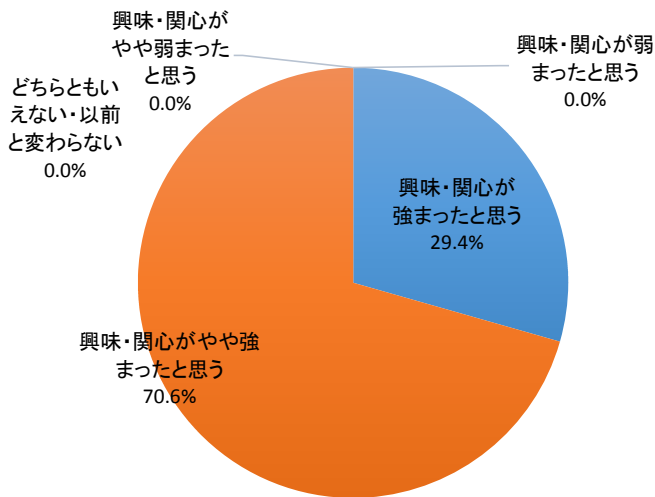
居住地	件
宇都宮市内	14
栃木県内(宇都宮市外)	1
その他	2
総計	17



職種	件
会社員	8
会社役員	0
自営業	1
学生	5
専業主婦・主夫	1
その他	2
総計	17

## ②宇都宮市政に対する興味・関心の変化

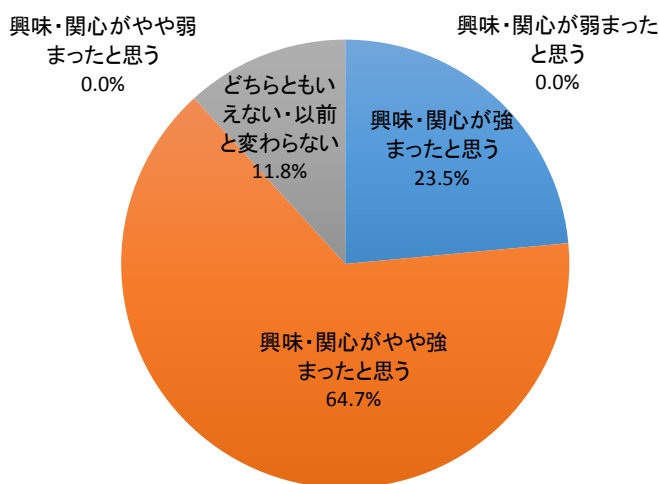
・宇都宮市政に関する興味・関心は、「興味・関心がやや強まったと思う」が70.6%,次いで「興味・関心が強まったと思う」が29.4%であった。



	件
興味・関心が強まったと思う	5
興味・関心がやや強まったと思う	12
どちらともいえない・以前と変わらない	0
興味・関心がやや弱まったと思う	0
興味・関心が弱まったと思う	0
総計	17

## ③参加テーマに関する興味・関心の変化

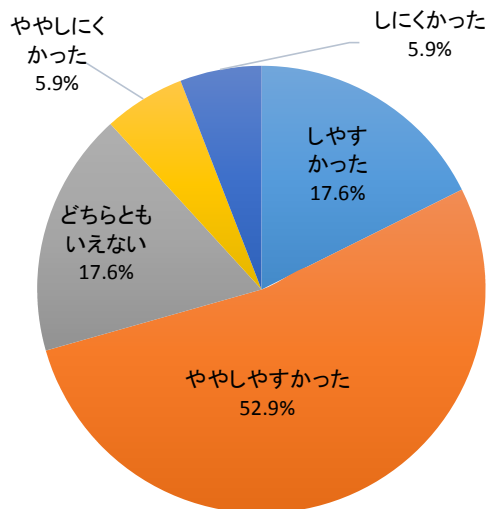
・参加したテーマに関する興味・関心は、「興味・関心がやや強まったと思う」が64.7%,次いで「興味・関心が強まったと思う」が23.5%であった。



	件
興味・関心が強まったと思う	4
興味・関心がやや強まったと思う	11
どちらともいえない・以前と変わらない	2
興味・関心がやや弱まったと思う	0
興味・関心が弱まったと思う	0
総計	17

#### ④発言のしやすさ

・発言のしやすさは、「ややしやすかった」が52.9%、「しやすかった」及び「どちらともいえない」が17.6%であった。



	件
しやすかった	3
ややしやすかった	9
どちらともいえない	3
ややしにくかった	1
しにくかった	1
総計	17

表 4 発言がしやすかった理由

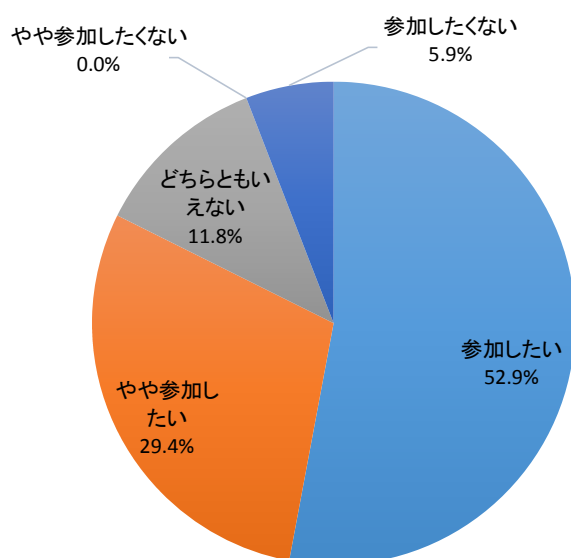
No	具体的な理由
1	発言した内容に対して、丁寧に返答してくださっていたため、意見が出しやすかった。
2	自由に自分の考えなどスレッド内に書き込むことができたのは良かったと思う。ただ一つのトピックに対して立て続けに意見が取り交わされることは思った以上に少なかった様思う。
3	匿名だった点。きちんとした意見でなくても、思いをハードル低く書き込むことができた。
4	自分の時間に発言できること。ただ日々追われていると発言するタイミングを逃してしまい、そのままになってしまうこともあった。
5	発言しやすい環境があったことと、返信してくださったこと。
6	他の参加者の方が指名をしてくださり、具体的な事例や問題を題材にそれについての意見を述べるスタイルであったことで、どのような内容の意見が求められているかが理解しやすく、意見を出しやすかったから。
7	一人ひとりに返信を頂けたのが良かった。
8	市役所の方が話題振りをしてくれたり、資料を送ってくれたりしたため、とてもやりやすかった。一対一でもとても丁寧に対応していただけて嬉しかった。
9	話題を振ってくれるから
10	市役所の職員の方が時々「他の方はどうですか」と言って下さったから。
11	好きな時間に発言できるため。
12	全体的にもう少し発言者数が多いと良いと感じたが、お互いを尊重し合う形で各々が発言していた為、良かったと思う。

表 5 発言がしにくかった・どちらともいえない理由

No	具体的な理由
1	今回の集まりで得ようとしている情報が、暮らしに関するちょっとしたアイデアという面と、テーマになっている全国モデルとなる取組との2つがあり、参加者の話し合いに対する目標が一致していなかったように感じる。ただ意見が聞きたいのであれば、このような形ではなく街頭アンケートでも、ネットの質問でもできたと思う。時間をとってまで、話し合うような内容とはなっていなかったのではないか。
2	積極的に参加するメンバーがいなかった。自分だけの発言になることもあり、活気がなかった。
3	slack というものに不慣れであったため、今ひとつ使いこなせなかった。
4	発言したことへのアンサーが特にない。

### ⑤今後の参加意向

・今後、同様の取組があった場合の意向は、「参加したい」が52.9%、「やや参加したい」が29.4%であった。



	件
参加したい	9
やや参加したい	5
どちらともいえない	2
やや参加したくない	0
参加したくない	1
総計	17

表 6 参加したいと思った理由

No	具体的な理由
1	名前は知っていても具体的に何をしているか分からないことを、多様な立場の人の意見を聞きながら理解を深めていけるから。
2	積極的に意見を交換ができる人と出会いたい。
3	周りの人の意見などとても参考になった。自分の考えや意見がこれ以上出るのが分からないが、考えながら日々過ごすことで浮かぶアイデアもあるので引き続き参加してみたいと思う。
4	政策は敷居の高いものという印象だが、このような場を活用して、市民のリアルな声を届け、政策に反映され、よりより街づくりに活かせるのであれば良いなと思った。
5	今回は個人の都合上忙しくてあまり発言ができなかったのだが、次回以降があるのであれば、今回の反省を生かして積極的に発言がしたいと思い、参加したいと思った。
6	行政に対して市民の声を直接届けられる場は貴重であるから。
7	他の参加者の発言から、これからのキャリアプランを考えさせられたり、自分と異なる意見にも触れることができたりと、自分の視野が広がったと思うから。また、宇都宮市のこれからについてもっと興味が湧いたから。
8	また違う人たちと意見交換をして、宇都宮をもっと好きになりたい。もっと好きになって欲しい。
9	自分の意見を聞いてもらいたい
10	色々な人の考えを知ることができ、勉強になったから。
11	現役の市の職員と一緒に、様々な問題を考えることができたのが良かった。
12	新たなアイデアや案が出るかは分からないが、こういった活動に参加し続ける事で他の方の意見などを見る事で新たな発見があると思うため。自分の考えを述べられるのも良いが、学ぶ場としても良い機会となっている。

表 7 参加したくない・どちらともいえないと思った理由

No	具体的な理由
1	このような形で意見を募るのであれば、Twitter 等で自由な意見を募集することで十分だと思う。むしろ開催してみて市役所の皆さんがどう思ったのか、振り返りを教えていただきたい。
2	限られた人の発言のみで意見交換があまりできなかったため。